

叙勲（旭日単光章）受章

平成29年5月28日に亡くなられた坪井重憲さん（胥永）が旭日単光章を受章され、富田町長よりご家族へ伝達が行われました。

坪井さんは、平成11年10月から平成29年5月までの永きにわたり掛斐川町議会議員として在職され、平成17年3月から1年間を副議長として、更には平成21年3月から1年間を議長として、議会の円滑な運営に尽力されました。

また、養老鉄道存続特別委員会委員長を務め、地域公共交通の存続等について、多大な貢献をされました。これらの生前の功績が認められ、今回の叙勲の受章となりました。この多大な功績に対し、敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りします。



▲叙勲の伝達が行われました

小学生県外研修派遣認定式

7月13日（木）、掛斐川町役場で小学生県外研修派遣事業の認定証交付式が行われました。

今年度の研修に参加する児童は、町内小学生20人で、研修先は、友好都市提携を結んでいる北海道芽室町と地域に開かれたダム全国連絡協議会などで交流を深めている高知県宿毛市です。児童らは、北海道の大規模農業や高知県の漁業などを体験して、現地の人々と交流し見聞を深めます。



▲認定証を受けとる児童

派遣団の児童は、「体験で知ったいいところを掛斐川町に伝えていきたい」「掛斐川町のよさを色んな人に伝えたい」とやる気に満ち溢れていました。派遣団は、8月18日（金）から22日（火）の日程で研修を行います。

北海道芽室町の児童が掛斐川町へ

掛斐川町と友好都市提携を結んでいる北海道芽室町の小学生12人が、7月25日（火）から7月27日（木）にかけて町を訪れ、研修を行いました。

26日（水）には、春日貝原棚田で草木染めを体験したり、上ヶ流茶畑を見学するなどして掛斐川町の文化や自然に触れました。

また、27日（木）には、小島小学校を訪れ、お互いの町や学校の特色を発表して交流しました。

また、ほかにも桂茶販売所でのいいお茶の入れ方を学ぶなど、掛斐川町を満喫しました。訪れた児童からは「川や山がたくさんあった」「芽室と比べて蒸し暑い」などの感想がありました。



▲芽室町派遣団の皆さん

町の豊かな自然の中で学ぶ

掛斐川町では、平成24年度から「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した「いびがわキッズ探検隊」事業を実施しています。この事業は、町内小中学校の野外学習活動を対象としています。

6月15日（木）から16日（金）に、掛斐川中学校の1年生127人が、ふじはし星の家に宿泊し研修を行いました。私たちの生活にとって川や森が欠かせないことを学んだり、仲間と力を合わせてカレー作りやレクリエーションを楽しんだりしました。

掛斐川町の豊かな自然の中での体験活動を通して、自然の恵みと仲間の大切さを改めて実感することができました。



▲横山ダムと生活とのかかわりを学ぶ

清流の国ぎふ



社会を明るくする運動 街頭啓発

7月の「社会を明るくする運動」と「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に併せて、7月3日(月)、いびプラザ前、養老鉄道揖斐駅前、パロー揖斐川店前の3か所で街頭啓発活動が行われました。

保護司会、更生保護女性会、揖斐川BBS、青少年育成推進員、県立揖斐高等学校のMSリーダーズ、揖斐川中学校と北和中学校のMSJリーダーズのメンバーらが、啓発グッズやチラシを配布し、犯罪や非行の防止を呼びかけました。

私たち住民一人ひとりが、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築いていきましょう。



▲いびプラザ前で呼び掛け

夢の教室夢先生

7月10日(月)から7月12日(水)まで町内7つの小学5年生児童を対象にJFAこころのプロジェクト「夢の教室」が開かれました。

この教室は、仲間と協力し助け合うことや、夢をもつことの大切さを子どもたちに伝えることを目的に公益財団法人日本サッカー協会から講師の派遣を受けて開かれました。

11日(火)は、大和小学校で大和小学校と清水小学校の5年生児童あわせて33人が参加しました。この日の講師は、元プロ野球選手のマック鈴木さんが務め前半は、体育館での「鬼ごっこ」を行い、後半は鈴木さんの体験談を聞きながら自分たちの夢について考えました。

鈴木さんは、「学校で勉強や運動にしっかりと取り組むと同時に、夢を実現させるために努力を続けてくれることを願っています」と話しました。



▲夢先生を務めたマック鈴木さん(写真右)

河川環境美化看板デザイン コンテストで入賞

8月3日(木)、揖斐川町役場で河川環境美化看板デザインコンテストの入賞者に表彰状が授与されました。デザイン部の、最優秀賞三宅のりかさん(谷汲小学校5年)、優秀賞岡部煌世さん(谷汲小学校5年)・瀧本琉愛さん(西濃学園中学校3年)、キャッチコピーの部、最優秀賞渡邊椋音さん(大和小学校4年)、優秀賞仲井リコさん(大和小学校6年)・谷口琴音さん(揖斐川中学校1年)がそれぞれ表彰を受けました。

このコンテストは、昨年の揖斐川町中学生議会での中学生からの提案で、今年度実施され、入賞作品により3種類の看板が作成されました。

表彰を受けた子どもたちは、「下流の人たちや未来の人たちへきれいな川を引き継ぐために思いを込めて作った」と話しました。



▲完成した看板を持つ子どもたち

消防救助技術東海地区指導会 揖斐郡消防組合が優勝

7月26日(水)、三重県消防学校で第46回消防救助技術東海地区指導会が開催されました。消防本部の職員が日夜研鑽・練磨した救助技術を披露するこの大会には、揖斐郡消防組合消防本部のほか、東海3県の消防本部の精鋭が参加し、陸上の部・水上の部の各種目の技術を競いました。

大会の結果は次のとおりです。

《陸上の部》

- ・障害突破(東海地区) 優勝
- ・ほふく救出(岐阜県) 準優勝
- ・はしご登はん(岐阜県) 優勝



▲揖斐郡消防組合の皆さん

なお、障害突破は東海地区代表として、はしご登はんは岐阜県代表として、8月23日(水)、宮城県仙台市で開催される全国大会へ出場します。

夜叉ヶ池伝説道中まつり

7月22日(土)、遊らんど坂内内特設会場で、夜叉ヶ池伝説道中まつりが開催されました。

このまつりは、約1200年前から伝わる夜叉ヶ池伝説を再現する創作音楽劇をメインイベントとして、ステージでは、長浜市交流ステーションや「鼓國雷響JAPAN」の太鼓演奏などが行われ、祭りを盛り上げていました。

夜叉ヶ池伝説は、美濃の国神戸(現在の神戸町)の郡司が、恵みの雨の返礼に娘を夜叉ヶ池にすむ龍神に嫁がせたという物語です。地元の人たちが出演する創作音楽劇「夜叉ヶ池物語」のクライマックスシーンでは全長21メートルの龍神が現れ、夏の夜に幻想的な伝説が蘇りました。



▲龍神と夜叉姫

夜叉ヶ池伝説マラニック



▲祭り会場を駆け抜ける参加者ら

7月22日(土)と23日(日)の2日間、夜叉ヶ池伝説になぞらえて、夜叉姫ゆかりの神戸町から坂内の夜叉ヶ池までを往復する「夜叉ヶ池マラニック」が開催されました。

コース延長が13.5kmという過酷を極めたこの大会には、今年も全国から多数の参加者がありました。

初日の23日は、神戸町役場をスタートして揖斐川沿線を走り、坂内の道中まつりの会場を目指しました。

2日目は、早朝に坂内交流センターを出発して夜叉ヶ池までの山道を駆け登り、折り返して神戸町役場を目指しました。

初日ゴールの道中まつりの会場では、祭りに訪れた人々が、会場内に入ってくる参加者を温かい拍手で迎えました。

いびがわの祭り
〜夜空に咲くありがとうの花〜

8月6日(日)、いびがわの祭りが開催されました。

町内各地では、朝から商工会各支部によるバザーが行われました。

また、さまざまな屋台が連なる「屋台村」は、多くの人で賑わいました。

祭りの最後となる、「ありがとう花火大会」では、町民の皆さんの願いや感謝がこめられた約6500発の花火が打ち上げられました。皆さんから寄せられたメッセージは花火の打ち上げにあわせて読み上げられ、この日会場に訪れた約35000人の人を魅了していました。



▲多くの人で賑わう屋台村



▲夜空を彩る打ち上げ花火